

(2) 釜代1号墳出土の内行花文鏡について

青銅鏡は中国において前13世紀、殷の時代に起源するが、中国では春秋時代から戦国時代を経て漢代になっていわゆる漢鏡が成立し、広く普及した。中国での墳墓における副葬例は一人一面の原則が見られ、日本のように一人の埋葬にあたって多数の鏡を副葬する例は見られない。また、湖南省馬王堆1号墓では化粧箱に納められて鏡が一面発見されてた例があることなどから、中国においては鏡に呪力を認めるることはあっても、主に生活の場において姿見や化粧道具として使用されていたと推定されている。^(註1)

日本列島に青銅鏡が最初にもたらされたのは弥生時代後期末で、青銅製の武器類と共に朝鮮半島にもたらされた多鈕細文鏡である。この鏡が中国鏡と決定的に違うのは、鏡面部が凹面となっている点で、これは朝鮮半島において鏡が実用的な映像の具としてではなく、集光反射板としての機能を活かした太陽神の依代、またはそれを象徴する呪具としての認識があったことを窺わせる。すなわち中国で成立した中国鏡は朝鮮半島を通して鏡が呪具または祭器であるという概念とともに日本に伝わったということが言える。

弥生時代中期には中国大陆で漢鏡から北九州を中心に日本に舶載され、弥生後期には東は近畿地方にまで普及するが、最初に朝鮮半島から鏡と共に伝わった呪具、祭器という概念は日本人の意識の中に深く根差していたようで、そのために中国からの舶載鏡は日本では珍重され、権力者の墳墓にはさかんに副葬され、破片となった鏡でさえ呪力を認めているようである。また、この頃から舶載鏡の輸入が追いつかなくなつたためか日本においても漢鏡を模倣した仿製鏡の製作が始まると言われている。

弥生～古墳時代にかけての墳墓から出土する青銅鏡には、様々な種類が知られているが、それらの中で代表的なものとしては「三角縁神獣鏡」、「方格規矩鏡」、「内行花文鏡」などが出土例も多くよく知られている。

島根県内の出土例を集成したものが第7表である。本墳出土例を含めて現在43面が知られ、その内訳は、三角縁神獣鏡5面、方格規矩鏡2面、斜縁二神二獣鏡2面、斜縁獣帶鏡1面、内行花文鏡8面、珠文鏡、乳文鏡、櫛齒文鏡等を含めたその他の鏡種のものが21面、鏡種不明のものが4面である。

本墳から出土した青銅鏡は「内行花文鏡」に属するが、この鏡種は三角縁神獣鏡や方格規矩鏡などに見られるように、その文様構成に四神や靈獸などを使わず、幾何学文様を基調としている点に特徴がある。内行花文鏡の仿製が始まった頃に手本とされた漢鏡は、福岡県平原遺跡の出土例に代表されるように平縁を持ち、天を象る蓋笠を表現した8連の円弧（8弧文）を内区に置き、その外周に櫛齒文帶ではさんだ雲雷文帯を配し、また各弧間には蓋笠を支える柱や垂幕を縛り上げた紐を表わす小単位文を置き、鈕には「長宜子孫」等の吉祥句からなる銘文を間に配した四葉文座を持つものであると言われている。日本国内において製作が始まってから後には様々な面径を持つものが知られ、最大46.5cmを測る福岡県平原遺跡出土例のものから10cm以下のものまで幅広く見られる。これは仿製の三角縁神獣鏡が直径21～24cmの範囲内で作られ、規格があつたらしいこととは対称的であり、その点では製作者の自由な意匠が反映されているかのようであるが、内行花文鏡の面径にも幾つかのピークがあつて分類でき、文様構成との相関関係が見られるようである。すなわちそれは26cm以上の超大型鏡の一

群と、17cm前後の中型鏡、9～11cm程度の小型鏡がある。この内超大型鏡の部類に属するものは面数が少なく特殊であり、後二者が一般的で、その中でも特に多く見られるのが9～11cmの小型鏡である。これらをその文様構成と照らし合わせてみると、中型鏡～大型鏡に入る面径を持つものには、「八弧文」、「雲雷文帶」、「四葉文鉢座」、「弧間の小单位文」など、手本とした漢鏡の中に見られる文様要素の内、全てではないにしても大部分を色濃く残すものが多いが、小型鏡の部類に入る面径を持つものには、「6弧文」を持つものが7割以上を占め、漢鏡に見られたその他の文様要素は欠落したものが多くなり、逆に漢鏡には見られなかった「鋸歯文帶」が外周に巡るなどの新たな文様要素が取り入れられ、中には鋳上がりも粗雑なものが見られるようになるため、時代と共に小型化し、8弧文鏡から6弧文鏡へ、またその他の文様構成は漢鏡に忠実なものから簡略化したものへと推移することが考えられている。^(註2)

本墳出土の例を照らし合わせてみると、面径は11.4cmで6弧文を持ち小型鏡の部類に属する。鉢座には円鉢の周囲に2重の細い界線を巡らせるだけで「四葉文」の省略された様子が窺われる。6弧文の外周には1条の連珠文帯をはさむ形で櫛歯文帯が2条巡っている。漢鏡では2条の櫛歯文帯の中には雲雷文帯を配するため、ここでは雲雷文帯が変化して連珠文帯に置き変えられたとみるべきであり、あるいは雲雷文帯の中に見られる渦文が珠文に変化したものであろうとも考えられる。特筆すべき点は、本墳出土例で見られるような「櫛歯文十連珠文十櫛歯文」という文様構成を持つ類例は他にほとんど見られないことであり、現時点では宇部市松崎古墳出土例^(註3)(PL-8, 下段)しかない。また、^(註4)「櫛歯文十連珠文」、^(註5)「櫛歯文十櫛歯文」の例は小型仿製内行花文鏡の中では類例が多く見出される。本墳出土例のような希少な例をどう捉えるかにもよるが、後二者に比べて本墳出土例の文様構成の方が漢鏡には忠実であるものと考えられる。最後に「弧間の小单位文」については本墳出土例にも見られるものであり、小さな珠点から細くヒゲ状に3本の枝を伸ばしており、やや退化した感は否めないものの、文様自体は欠落していない。総合的に見て本墳出土の鏡には欠落した文様要素も見られるものの、漢鏡の名残りを留める部分も多くあり、また鋳上がりも良く、文様の仕上がりもシャープな秀作であると言える。

註1) 田中琢「古鏡」日本の原始美術8、講談社、昭和58年

註2) 田中琢「鐸・劍・鏡」日本原始美術大系4、講談社、昭和52年

註3) 「松崎古墳」(宇部市文化財資料第1集)宇部市教育委員会、1981年

註4) 広島県小谷1号墳、奈良県榛原町野山2号墳、羽曳野市御旅山古墳、高松市摺鉢谷古墳、熊本県八代市谷川、等の出土例がある。(樋口隆康氏の教示による)

註5) 奈良県榛原町丸尾5号墓、備前市丸山古墳、岐阜県船木山24号墳、熊本県八代市谷川、坂出市ハカリゴー口、等の出土例がある。(樋口隆康氏の教示による)

補記) 本墳出土鏡については、現在東京国立文化財研究所保存化学部化学研究室長の平尾良充氏により鉛同位体比分析及び蛍光X線分析法による分析が試みられており、その結果によりさらに本墳出土鏡の性格が浮き彫りにされるものと思われる。

第7表 島根県内古鏡出土遺跡一覧表

No.	名称・所在地	鏡種	墳形・規模・概要	その他出土遺物
1	寺床1号墳 (八束郡東出雲町)	斜縁二神二獸鏡 (第1主体, 径約13cm)	方墳 (27.5×22.3m) 第1:割竹形木棺(櫛様) 第2~第6:土壙	(第1主体) 鉄製太刀1, 鐵劍1, ヤス状鉄製品3, 硬玉製勾玉1 (埴丘中) 鼓形器台, 高杯(小谷式)
2	造山1号墳 (安来市荒島町)	三角縁三神三獸獸帶鏡 (第1主体, 径24cm) 方格規矩鏡 (第1主体, 径17.4cm) 方格規矩四神鏡 (第2主体, 径19cm)	方墳 (一辺約60m) 竪穴式石室2基	(第1石室) ガラス製管玉, 刀身片 (第2石室) 碧玉製柄垂車, ガラス製管玉, 刀身片, 刀子身片 (埴丘) 特殊円筒形土器片数個分
3	造山3号墳 (安来市荒島町)	斜縁二神二獸鏡 (石室内, 径15.4cm)	方墳 (58×44m) 竪穴式石室(櫛床)	(石室内部) 碧玉製管玉30, ガラス製小玉33, 刀子1, やりがんな1 (墓域埋土中) 壺, 壺, 鼓形器台, 小形丸底壺, 小形低脚壺片
4	大成古墳 (安来市荒島町)	三角縁唐草文帶二神二獸鏡(石室内, 径23.4cm)	方墳 (65×53m) 竪穴式石室(櫛床?)	(石室内部) 環頭太刀1, 剣身3, 低脚壺2, 小形丸底壺3, (埴丘東斜面) 壺形土器口縁部片1
5	神原神社古墳 (大原郡加茂町)	景初三年銘陳是作重列式三角縁神獸鏡 (石室内, 径23cm)	方墳 (35×30m) 竪穴式石室(粘土床)	(石室内部) 素環頭太刀1, 太刀1, 剣2, 鐵鑑36, 銀先1 鍔1, なた状鉄器1, 鋸1, 斧1, 錐2, 錐針2 (石室蓋上) 壺5個体以上, 円筒形土器7個体以上 (墓域内埋納壺) 壺5個体
6	松本1号墳 (飯石郡三刀屋町)	斜縁獸帶鏡 (第1主体, 径13cm)	前方後方墳 (全長50m) 第1:箱式木棺(粘土床) 第2:割竹形木棺(粘土櫛) 第3, 4:壺棺	(第1主体) 鐵製刀子3, 小形刻形鉄器1, 錐針7以上 ガラス小玉54 (第2主体) 鐵劍1, 碧玉製管玉1, 鐵器小片 (第3, 4主体) 出土遺物なし (後方部埴丘封土中) 高杯1, 壺1 (後方部北溝中) 壺3, 小形丸底壺1, 高杯1 (前方部東側) 壺1, 器台1 (くびれ部東側) 壺1, 高杯12
7	八日山1号墳 (松江市新庄町)	三角縁波文帶四神二獸鏡 (径21.85cm)	方墳(推定一辺23.5m) 内部主体不明	
8	古城山古墳 (八束郡東出雲町)	位至三公銘內行花文鏡 (棺内, 径16.3cm)	方墳 (一辺約20m) 割竹形木棺(直櫛)	鼓形器台1
9	小屋谷3号墳 (八束郡八雲村)	四寸文鏡 (第1主体, 径9.5cm)	方墳 (19×15m) 土壙2基	(第1主体) 刀1, ベンガラ, 木片 (第2主体) 出土遺物なし
10	奥才14号墳 (八束郡鹿島町)	內行花文鏡 (第1主体, 径18cm) 方格文鏡 (第1主体, 径11cm)	円墳 (径16m) 石棺2基	(第1主体棺内) 碧玉製柄垂車形石製品1 (第1主体棺外) 素環頭太刀1, 鐵槍1, 鐵劍2, やりがんな2, 刀子1, 不明鉄器4 (第2主体棺内) 鐵劍1, 鐵鑑1, 刀子1
11	奥才34号墳 (八束郡鹿島町)	捩文鏡 (壺内, 径7.8cm)	方墳 (10×5m) 不整円形土壙内に壺	(壺内) 碧玉製石鉗1, 碧玉製勾玉1, 玻璃製勾玉1, 赤色顔料付着櫛
12	奥才12号墳 (八束郡鹿島町)	珠文鏡 (第3主体, 径6.7cm)	方墳 (17×14m) 土壙3基 (第1主体木棺櫛床, 第2, 3主体土壙)	(第1主体) 刀子1, 鐵状鉄器1 (第2主体) 出土遺物なし (第3主体) 碧玉製管玉3
13	月廻番外3号墳 (松江市法吉町)	盤竜鏡 (墓壙中, 径10.5cm)	方墳 (一辺23m) 土壙1基	(土壙中) 碧玉製管玉3
14	小谷土壙墓 (安来市切川町)	內行花文鏡 (第1主体, 径8.2cm)	自然丘陵の頂部を東西8m, 南北5mの範囲で平坦に加工し, そこに2基の土壙を穿つ	(第1主体) 刀子1 (第1上面) 高杯, 櫛付壺, 櫛付まり, 器台 (台2主体) やりがんな1
15	客山1号墳 (松江市新庄町)	九乳文鏡 (土壙内, 径9.2cm)	方墳 (10.5×9.5m) 土壙1基	(土壙中) 櫛4, 刀子2, 碧玉製管玉9, ガラス小玉6 (土壙上) 土師器壺底部片
16	金崎1号墳 (松江市西川津町)	內行花文鏡 (石室内, 径6.9cm)	前方後方墳(全長32m) 竪穴式石室1基	(石室内) 青銅製柄垂車様品1, 漆塗輪付直刀1, 鍔1, U字形鍔先1, 刀子1, 子持勾玉2, 碧玉製勾玉5 碧玉製管玉4, 碧玉製環玉2, 環構製勾玉6, 水晶製垂飾1, ガラス小玉多數, 滑石製白玉多數, 須恵器(櫛付壺1, 長頸壺1, 異形連管小壺1, 器台1, 櫛4, 有蓋高杯5) (前方部中央) 人物埴輪, 家形埴輪

No.	名称・所在地	鏡種類	墳形・規模・概要	その他出土遺物
17	薬師山古墳 (松江市西川津町)	四乳鏡 (径9.5cm)	墳形、規模不明 (箱式棺?)	刀身2、鐵鏹、滑石製有孔円板6、土師器(高環4、小形壺1) 須恵器(陶2、有蓋高环1、無蓋高环1、壺蓋3、坏身6、小形壺1、大型壺2)
18	築山古墳 (八束郡玉湯町)	位至三公銘双竜鏡 (径8.0cm)	円墳(径約16m) 舟形石棺2基	鐵鏹1束、紙留短甲残欠、勾玉、管玉、丸玉、小玉、小形壺、 刀劍類
19	上島古墳 (平田市国富町)	五鈴鏡 (石棺内、径10cm)	円墳(径約15m) 墳頂部に家形石棺1基 直葬と竪穴式石室1基	(石棺内) 銀環1、瑠璃製管玉9、ガラス小玉152、ガラス 丸玉22、鉄釧、刀子2、直刀1、金銅製金具6、 鉄金具1、針状鉄片2、須恵器蓋环3組 (石室内) 鐵鏹1束、石突1、鞍金具、轡2、雲珠4、杏葉7
20	御崎山古墳 (松江市大草町)	珠文鏡 (石室内、8.2cm)	前方後方墳 (全長41m以上) 横穴式石室1基、玄室 内に家形石棺2基	金環2、銀環2、金銅鏡4、断頭環頭太刀1、太刀2、鐵鏹、 サイ1、馬具(雲珠1、辻金具1、轡1、杏葉1、菱形金具2) 鉄釧2、鉄錠1、須恵器(大壺1、提瓶5、長頸壺2、有蓋壺、 壺2、脚付壺1、高环2、有蓋高环1、壺蓋6、土師器壺1)
21	岡田山1号墳 (松江市大草町)	長宜子孫銘内行花文鏡 (石室内、径10.6cm)	前方後方墳(全長24m) 横穴式石室1基、玄室 内に家形石棺1基	環頭太刀1、円頭太刀1、主頭太刀1、刀子3、金銅製丸玉16 銀環2、馬具(鏡板一对、鞍金具1、雲珠2、辻金具4、鐵環 2、鈴7)、須恵器(壺1、陶1、高环1)
22	古天神古墳 (松江市大草町)	変形五獸鏡 (石室内、径13.6cm)	前方後方墳(全長25m) 石棺式石室	円頭太刀1、刀身數口、刀子身數口、金環2、銀環3、馬具(轡 残欠、雲珠残欠)、須恵器(脚付壺1、高环1、陶1、提瓶2)
23	鷲ノ湯病院跡横穴 (安来市植田町)	珠文鏡 (玄室内、径7.7cm)	横穴墓	玻璃製豪玉、銀装單毫環頭太刀、金銅製冠立飾、馬具残欠、鹿 角裝刀子
24	斐伊中山2号墳 (大原郡木次町)	細線式鳥獸鏡 (第4主体、径12.1cm)	地山整形により15x12 mの平坦面を造る (第1・2・5・6:土壤、第3:礫床、 第4:粘土層)	(第3主体) 鍾? (第4主体) やりがんな、刀子、水銀珠、鼓形器台輪片 (第6主体) 鐵劍1 (填縫) 燐火を伴う土器破片(壺1、低脚杯3)
25	山地古墳 (出雲市神西沖町)	二神二獸鏡 (第1主体、径12.6cm) 珠文鏡 (第2主体、径8.0cm)	円墳(径24m) 主体部4基 (第1:土壤、第2・3:礫床、第4:壺 棺)	(第1主体) 荷形銅器1、碧玉製管玉17、鐵製品1 (第2主体) 荷形銅器1 (第3主体) 出土遺物なし
26	四塚山古墳群 (益田市下本郷町)	三角縁神獸鏡 (径21.8cm)	墳形、規模不明 箱式石棺?	
27	釜代1号墳 (松江市西浜佐陀町)	内行花文鏡 (第2主体、径11.4cm)	梢円形墳(20x16m) 粘土層2基	(第1主体) 鼓形器台2、高环6、小形丸底壺1、直口壺2 (第2主体) 勾玉1、ガラス小玉67
28	小丸山古墳 (益田市乙吉町)	珠文鏡 (攪乱土中、径7.3cm)	前方後円墳(全長52m)	(攪乱土中) 馬銜1、木地金銅張製品片、鈴杏葉1、鐵器片、 須恵器片(蓋环類、高环、短頸壺)他
29	神代古墳 (大原郡大東町)	小形獸形鏡	円墳(径8m) 箱式石棺?	刀2、須恵器片1
30	今若峠1号墳 (安来市飯生町)	内行花文鏡	方墳(一辺25m?) 長持形石棺	勾玉3、管玉28、刀3、鐵鏹若干
31	大峠山古墳群 (邑智郡石見町)	櫛齒文鏡	墳形、規模不明 箱式石棺	須恵器
32	めんぐろ古墳 (浜田市治和三宅)	乳文鏡	円墳 横穴式石室1基	(石室内) 水晶切子玉1、鉄釧1、三輪玉形金具4、直刀1、 槍身残欠1、石突1、轡1、馬銜3、環錘1、鐵地 金銅張円形飾金具1、かこ残欠1、須恵器
33	鶴ノ鼻50号墳 (益田市遠田町)	乳文鏡	墳形、規模不明	
34	鳥越山遺跡 (八束郡東出雲町)	鏡種不明	概要不明	
35	大念寺古墳 (出雲市今市町)	鏡種不明	前方後円墳(全長92m) 横穴式石室1基	須恵器、馬具他
36	明神古墳 (邇摩郡仁摩町)	鏡種不明	墳形、規模不明	
37	周布川河原 (浜田市周布町)	内行花文鏡 (径7.6cm)	概要不明	
38	苗代田東方丘陵南 (隠岐郡五箇村)	乳文鏡 (径10.5cm)	概要不明	
39	丸山1号墳 (隠岐郡五箇村)	鏡種不明 (径8.0cm)	墳形、規模不明	